

景観学習教室のあらまし

明日の青森県を担う子どもたちにふるさとの美しい景観を守り、つくっていくことの大切さを学んでもらうため、県から景観の専門家を講師として学校へ派遣し、景観に関する授業を行う「景観学習教室」を開催します。体験型の授業を行うもので、屋外観察などを交えた景観を楽しく学ぶ「出前教室」です。この事業は、平成14年度から令和4年度までの21年間で、累計170校、累計児童数6,586人が参加しています。年度当初に募集を開始し、申込みのあった小学校で実施しており、小学校3年生から6年生を対象として総合学習や社会科の時間を利用し、地域の歴史や街づくりの学習の一環として実施しています。

I 座学中心タイプ

1 授業の内容

学校の希望や、講師によって授業の内容は違ってきますが、以下の内容を学んでもらいます。

- 景観とは自然のものと人がつくったものが調和して形成されていること
- 景観は人の営みによって変化していくこと
- 人がつくった景観は、人の手で維持管理していかないと良いものとはならないこと
- 同じ場所でも季節、見る距離、角度などによって見え方が異なり、人によっても感じ方が違うこと
- 日ごろ何気なく見ている景観が人の心に潤いを与えていること
- 観光地や有名な場所だけでなく、自分たちが住んでいる身の回りの景観も、意識して見ればいろいろなことに気付くということ
- 自分達が住んでいるまちの景観を意識し、それを「いいな」と思える心を養うこと
- いい風景をどうやって未来に残していくか、景観を良くするために、自分たちができることは何かを考えること

2 授業の流れ

■授業例（約90分の場合）

- ① 講師による講義（副読本使用）・・・約20分
- ② 優れた景観の事例紹介（スライド・写真など）・・・約25分
- ③ 学校周辺等の探索やワークショップ（好きな景観・嫌いな景観探し）・・・約30分
- ④ 学習発表（各自の発見やよい景観を守るために自分にできることの発表）・・・約15分

3 授業の様子



II まち歩き中心タイプ

1 授業の内容

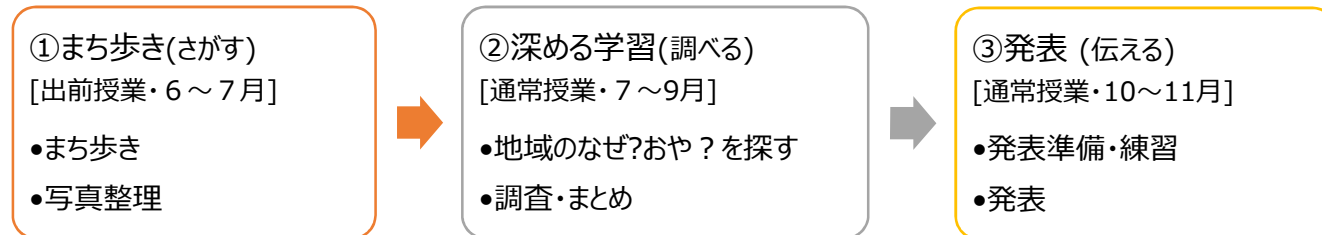
この学習では、景観を「地域の歴史や人々の暮らしがあらわれた風景」ととらえ、見慣れた学区域の風景をじっと観て、「あれ?」「おや?」と思うことを見つけ、深く掘り下げて調べてみる学習です。この学習で、講師は子供達に風景の観かたを教え、子供達の物事を感じ取る力、自分で調べ考える力、それを表現する力を養います。

2 学習の流れ

■全体の流れ

下記を学習全体の標準的な流れとし、「①まち歩き」の部分を講師による出前授業で実施します（各校の授業テーマに合わせて内容は調整します）。

なお、②、③は原則として各校で実施。



■出前授業の流れ

第1回出前授業【まちあるき】（4時間程度）

1時間目：まち歩き講座

- 景観とは“眺め”のこと。眺めの中にはなにがあるかな？（人工物・自然のもの）
- 好きな景観・嫌いな景観・気になる景観～「おや?」「あれ?」と思う景観を探してみよう～

2・3・4時間目：まち歩き

- グループに分け、学区探検をする。各グループに1台デジタルカメラを配り、良い景観・悪い景観・気になる景観を探し、写真を撮る。（デジタルカメラは台数が足りれば県から貸し出し）

※授業後、県で写真を印刷し、学校に送付します

宿題

- 各自が撮ってきた写真の中から、特に気になる・更に調べてみたい2～3枚程度を選んできてもらい、どうしてそれを選んだのか、何が良かったのか考えてきてもらう。

第2回出前授業【まち歩きまとめ】

1・2時間目：景観シート（または景観マップ）作成

- 選んできた写真を景観シート（又は景観マップ）にまとめる（景観シートの場合は個人で、マップの場合はグループで）
- クラス内で発表

授業の様子

